



Conservation Alliance Japan

一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン

# Conservation Alliance Japan 2022 Annual Report

# What's CAJ

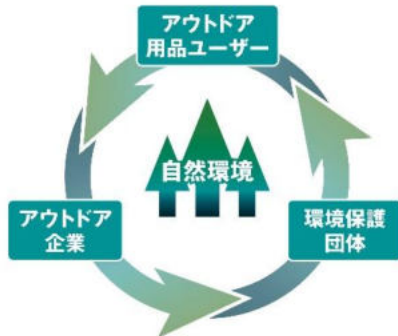
## わたしたちは、 アウトドアビジネスで得た利益の一部を 自然保護のために還元します

コンサベーション・アライアンス・ジャパン(CAJ)は、自然保護のために活動している日本の環境団体に、活動資金の援助を行なうことを目的に、アウトドア関連企業が集まって2000年7月に設立した基金団体です。

各社の売上規模によって決定した年会費を基金(アウトドア環境保護基金)として集め、アウトドアフィールド中心とした自然環境保護活動に対し、資金提供をしています。

コンサベーション・アライアンス・ジャパンの参加企業は、すべてアウトドア関連企業です。私たちがアウトドアビジネスで得た利益の一部を、自然環境保護のための活動資金として助成、支援することは、間接的にユーザーが自然保護のために資金提供することにつながります。

### 自然環境保全のポジティブ・スパイラル



## 【MISSION】

CAJは日本の価値あるアウトドア・フィールドの保全を目的とする、緊急的かつ有効な保全活動を行っている環境保全グループを支援します。

多くの人がアウトドアレクリエーションを楽しみ、固有の野生動物を育んできた多様性に満ちた日本の豊かな山や森、川や海を次世代へと継承するために、草の根的に活動する団体を支援していくことはアウトドア企業としての責務だと認識しています。

## 【VALUE】

### Catalyst(触媒として)

アウトドア産業のベースとなる自然環境の保護や保全に取り組む非営利団体とアウトドアビジネスを結び付け、ブランド、サプライヤー、リテーラー、キャンプ場、メディアを問わず、アウトドア産業界全体で協働する機運を高め、積極的な関与を促します。

### Collective Impact(集合的な影響力)

CAJの強みは、切磋琢磨している競合ビジネス同志が、健全な自然環境を持続させるという共通目標のもと、メンバーが一丸となって団結協働することで、社会的にも大きな影響力を及ぼすことができます。

### Give Back(還元)

CAJのメンバー企業は、ユーザーが次世代にもわたってアウトドアを楽しめるように、ユーザーから得た売上の一部をフィールドの保護や保全活動に取り組む非営利団体に還元します。

### Field Work (現場活動主義)

CAJの支援は、特定の土地や水域など、実際のフィールドに即した直接的な活動をしている非営利の自然保護プロジェクトにフォーカスしています。

# What's CAJ

## ■設立経緯

1989年、アメリカにおいて、アウトドア業界の各社が、ビジネスで得た利益の一部を自然環境保護のために還元する目的で、The Conservation Allianceという団体を設立しました。現在、アメリカの参加メンバーは230社を超え、自然保護のために大きな成果を上げています。それをきっかけに日本でも有志が集まり、2年半の準備期間を経て2000年7月、任意団体としてコンサベーション・アライアンス・ジャパンが設立されました。約20年の活動を積み重ね、今後更にインパクトある環境貢献の創出の為に、2019年6月に一般社団法人化いたしました。

## ■2025年ビジョン

### <Catalyst>

アウトドア業界のサステナビリティに関するハブになっている

### <Collective Impact>

主要アウトドア関連企業の過半を含む100社が加盟するCAJは、日本のアウトドア・フィールドの持続的な保全と利用に取り組む団体にとって重要かつ安定的な資金源となるとともに、ユーザーもCAJ加盟企業の製品・サービスを優先的に選択するようになっている

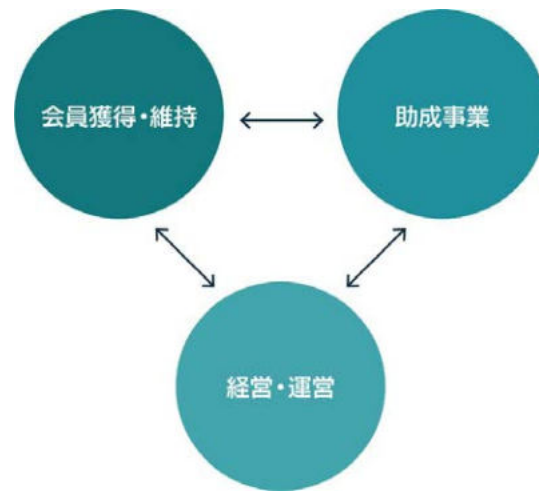
### <Give Back>

アウトドア業界全体に自然保護に対する倫理観が確立され、年間2500万円規模の助成が行われている

### <Field Work>

効果的なプロジェクトの支援を通じて複数のアウトドア・フィールドの保護・修復が実現している

## ■運営方針:3領域のポジティブ・スパイラル



### <会員獲得・維持>

助成成果の創出と広報を通じてCAJの認知を高めることに加え、各種勉強会、会員企業社員参加型のイベント等の開催を通じて、会員が継続するベネフィットを創出する

### <助成事業>

会員増加により拡大する基金を価値ある自然環境の保全に取り組む、実現可能性のあるプロジェクトを中心に助成することで成果を創出する

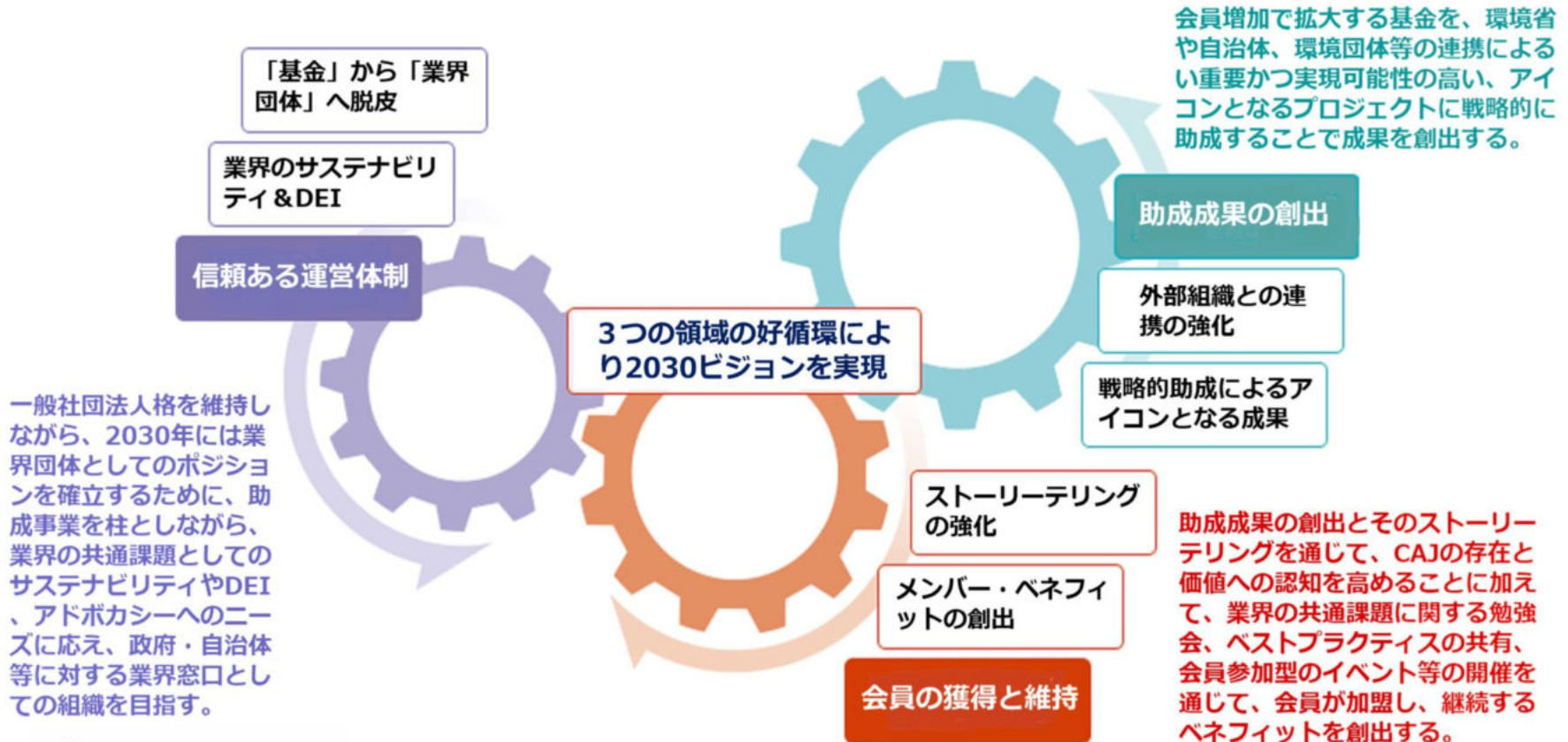
### <経営・運営>

一般社団法人化と共に運営・事務局体制を強化し、透明性のある事業運営を維持しつつ、成果を出すための柔軟な業務執行を行う



# Road to 2030

## CAJ2030ビジョン実現に向けたアプローチ



# Road to 2030

|          |                                                     | Phase 1 (2022-2024) ※中期計画対象                                  | Phase 2 (2025-2027)                                            | Phase 3 (2028-2030)                                            |  |
|----------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|--|
| KPI      | 年助成額／<br>会員総数                                       | 2022年(1150万円/60社)<br>2023年(1300万円/75社)<br>2024年(1600万円/100社) | 2025年(1800万円/120社)<br>2026年(2000万円/140社)<br>2027年(2200万円/160社) | 2028年(2300万円/180社)<br>2029年(2400万円/190社)<br>2030年(2500万円/200社) |  |
| 信頼ある運営体制 | ・基金から業界団体へ<br>・サステナビリティ<br>・DEI                     | 公益レベルのガバナンス維持                                                |                                                                | (仮称) 日本アウトドア産業協会 (JOIA) へとシフト                                  |  |
|          |                                                     | 事務局機能の強化                                                     |                                                                | アウトドア基金+サステナビリティ+アドボカシー+ダイバーシティ+ユース                            |  |
|          |                                                     | 委員会                                                          | 外部アドバイザー                                                       | 有給専属スタッフ                                                       |  |
| 会員の獲得と維持 | ・広報<br>・メンバー・ベネフィット<br>・会員企業社員の巻き込み<br>・ユースのアウトドア参加 | ストーリーテリング強化、会員ベネフィットの創出                                      |                                                                | 業界団体として業界の持続性、アドボカシー、情報発信                                      |  |
|          |                                                     | 未加盟主要アウトドア企業の加盟促進                                            | メンバーシップの範囲をアウトドアと親和性の高いビジネスへと拡大                                |                                                                |  |
|          |                                                     | OCAC勉強会                                                      | 会員のサステナビリティ向上支援                                                | NET ZERO 2030 目標                                               |  |
|          |                                                     | バックヤード・コレクティブの継続                                             |                                                                | ユース&ダイバーシティ・プログラム                                              |  |
| 助成成果の創出  | ・戦略的助成<br>・外部連携<br>・成果指標                            | 会員増加による基金規模拡大&成果創出                                           |                                                                | 「アウトドア基金」＝アウトドア自然保護基金＋ユースアウトドア基金                               |  |
|          |                                                     | アウトドア自然保護基金＝アウトドア・フィールドとして価値の高い自然環境・景観を保護するプロジェクトにフォーカス      |                                                                |                                                                |  |
|          |                                                     | 戦略的助成：環境省、NACS-J、地権者等と連携強化                                   |                                                                |                                                                |  |
|          |                                                     | ユースアウトドア基金：ユース世代のアウトドア体験を促進する                                |                                                                |                                                                |  |

※22年度計画にて中期ビジョンを見直し、ゴールを2025年から2030に延長した

# 中期方針

アウトドアコミュニティの力を結集して  
生物多様性を保全し、  
気候危機から私たちのフィールドを守る

気候変動緩和と生物多様性保全のいずれもが両立するような活動に注目し、

森林や里山、海洋など、炭素の固定化を促進できる健全な自然生態系を保全。

脱炭素化をめざすとともに、持続可能な形でアウトドアを楽しむことができる日本の自然環境を守る

# Grants

## <前期>

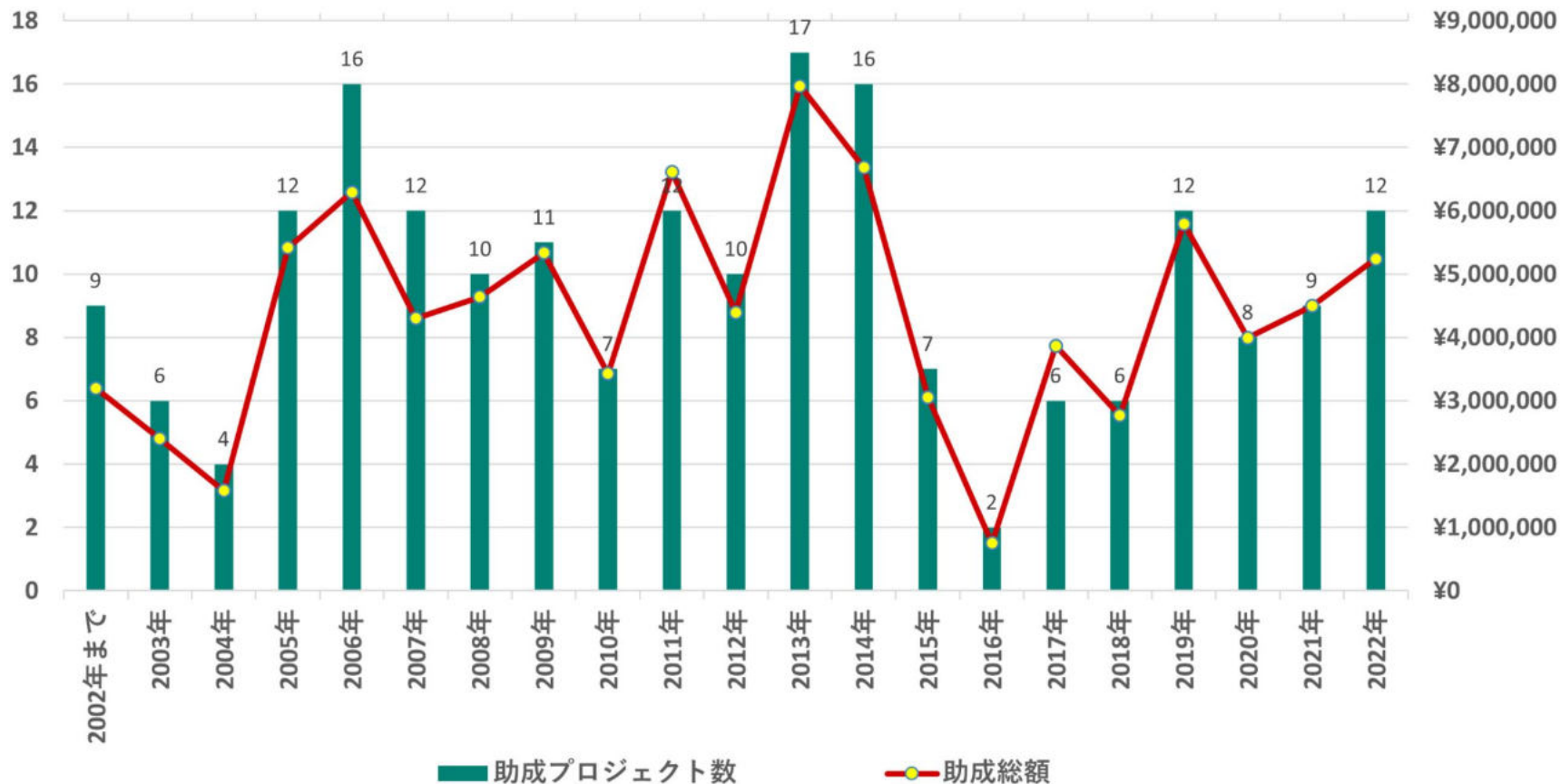
- ・ゆいむすび実行委員会  
【奄美群島ビーチクリーン事業 #islandcleanupday2022】
- ・修善の森プロジェクトの会  
【修善の森トンボビオトープ整備プロジェクト】
- ・三嶺の森をまもるみんなの会  
【児童・生徒対象のシカ害観察とブナ等の植樹による自然の再生活動】
- ・特定非営利活動法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会  
【射水南部丘陵における、人の営みと野生動植物の共生を促進する事業】

計12団体 支援総額 ¥ 5,243,244

## <後期>

- ・越後まつだいトレイルランニング実行委員会  
【越後まつだい春の陣～巡る里山トレイルジャーニー～】
- ・一般社団法人ネオアルプス  
【山と人と街プロジェクト】
- ・ユウパリコザクラの会  
【活動拠点の夕張岳ヒュッテトイレ棟改修事業】
- ・特定非営利活動法人 OWS  
【干潟保全プロジェクトーゆかし潟干潟保全活動ー】
- ・1095登山道整備隊  
【北アルプス 徳本峠整備・保全プロジェクト】
- ・朽木野鳥を守る会  
【生態観察環境整備プロジェクト】
- ・山のトイレを考える会  
【大雪山国立公園の山のトイレ環境改善の取組み】
- ・渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会  
【渡良瀬遊水池 湿地再生みらいプロジェクト】

# Grants Achievements





# Activity

## 21年度総会 (6/3)

オフィスのある八王子タカオネにて初めて合宿形式での開催。総会に加えて環境省の講演会、助成先2団体からの活動報告、懇親会では焚き火をしながらのBBQ、翌日は裏山トレッキングのアクティビティを実施した



## 「カーニバル湘南」出展 (11/3)

辻堂海浜公園にてSFJ主催による初開催のエコイベントに出展。toC向け露出強化施策として、メンバーロゴ一覧を前面に出し、クイズとアンケートに答えて参加できる抽選会では200名以上の一般参加者が集まった。



# Activity

## Tokyo Outdoor Show 2022 出展(1/13-15)



昨年に引き続きブース出展とアウトドア系環境4団体(LNT、SFJ、POW、CAJ)代表によるクロストークに登壇。18万人が来場する東京オートサロンに併設ということもあり、多くの一般客にリーチすることができた。

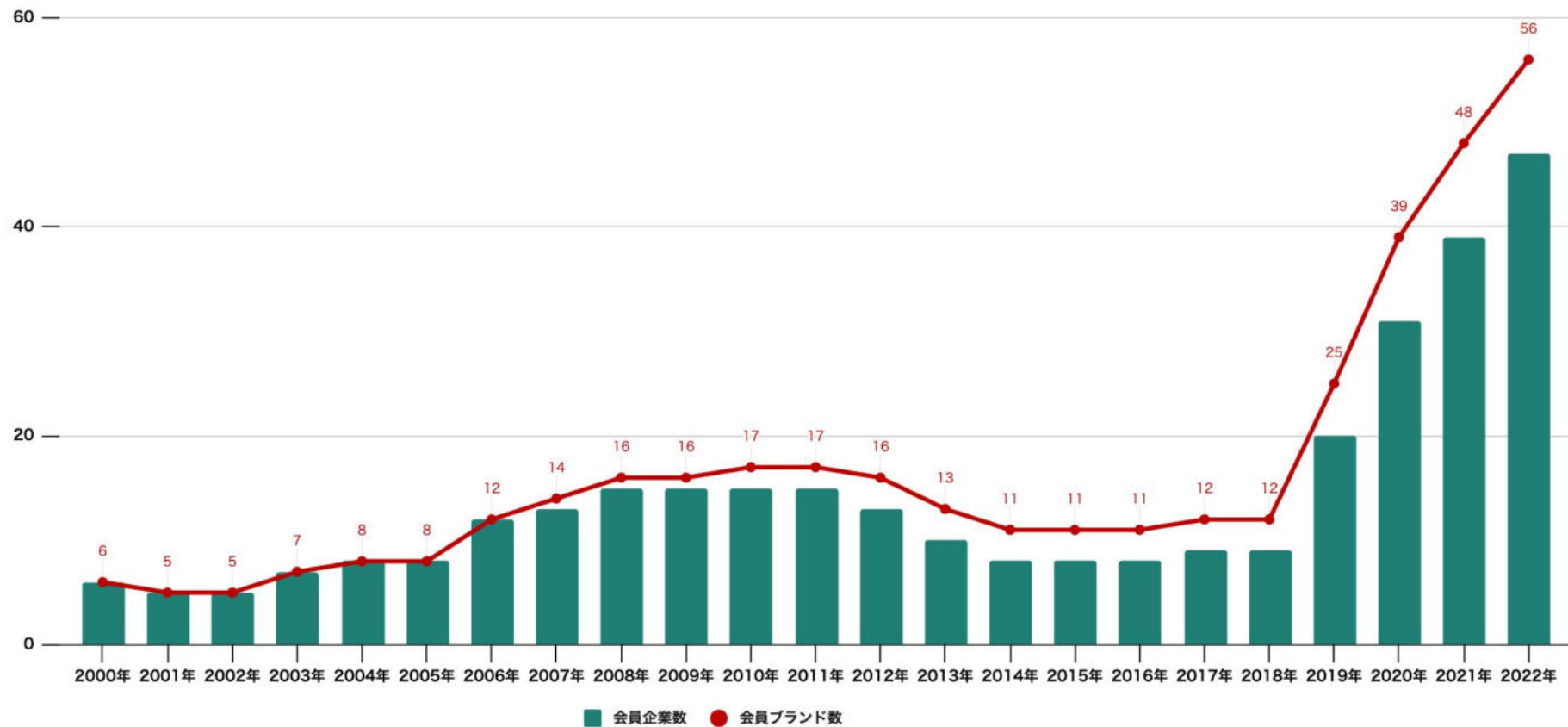


## アウトドア・イノベーション・サミット 「OIS2022」(12/21-22)

日本最大級アウトドア業界カンファレンスOutdoor Innovation Summit2022に例年通り実行委員会として参画。三浦代表理事が司会を担当し、ブースも出展した。



# Number of Member



# New Member

2022年04月入会



2023年01月入会





# 2022 Member



一般社団法人コンサベーション・アライアンス・ジャパン  
事務局

〒150-0002 東京都八王子市東浅川町313-2  
株式会社ヨンロクニ内

事務局長：滝沢守生

TEL:03-3797-0539 / FAX:03-6419-7015

E-mail: [info@outdoorconservation.jp](mailto:info@outdoorconservation.jp)

<https://outdoorconservation.jp/>

Board Member

代表理事：三浦 務  
専務理事：若菜 洋  
理事：齋藤 栄樹  
理事：竹田 尚志  
理事：古幡 浩史  
理事：与茂 雅之  
理事：渡部 麻里  
理事：中垣 貴野  
理事：西野 美加  
監事：篠 健司



Conservation Alliance Japan

一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン